

審議会会議録

1	会議の名称	平成26年度第3回富津市子ども・子育て会議
2	開催日時	平成26年10月21日 午後2時～午後3時45分
3	開催場所	富津市役所502会議室
4	審議等事項	(1) 保育の必要性の認定基準、優先利用の運用方針について (2) 公立保育所の定員について (3) 子ども・子育て支援事業計画の骨子案について
5	出席者名	委員 富井碧、井上久吏子、白井まり子、相澤靖司、小柴喜大、能城美佐子、鈴木眞廣、君塚善恵、岩瀬志帆、岡村京子、松倉佳子、渡辺務、菊池定勝 事務局 前沢健康福祉部長、白石子育て支援課長、茂木子ども家庭係長、小野田保育係長、渡邊主任主事、健康づくり課圓川総括保健師、学校教育課渡辺学務係長
6	公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	1 人（定員5人）
9	所管課	健康福祉部子育て支援課子ども家庭係 電話 0439-80-1256
10	会議録（発言の内容）	別紙のとおり

平成26年度第3回富津市子ども・子育て会議会議録

発言者	発言内容
事務局・茂木	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認
渡辺会長	<p>2 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の成立
事務局・茂木	<p>本日、廣田委員が欠席で、14名の委員の方が出席でございます。よって、過半数を超えており、子ども・子育て会議設置条例第6条第2項の規定により、会議は成立しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開
事務局・茂木	<p>この会議につきましては、富津市情報公開条例第23条の規定により、会議は公開することとなっております。</p> <p>本日の傍聴人は1名です。</p> <p>議事進行は、渡辺会長にお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議録署名人
渡辺会長	<p>議題に入る前に本日の会議録署名人を指名いたします。本日の会議録署名人は、小柴委員を指名します。</p>
	<p>3 議題</p> <p>< (1) 保育の必要性の認定基準、優先利用の運用方針について ></p>
渡辺会長	<p>議題(1) 保育短時間認定における就労時間の下限設定についてを議題とします。事務局の説明を求めます。</p>

事務局・小野田	資料 1 について説明
渡辺会長 相澤委員	<p>○質疑・意見</p> <p>事務局の説明が終わりました。質問等ございますか。</p> <p>新制度富津市案の 10 番で「市町村が認める場合」と書いてありますが、市の制度なので「市が認める場合」が良いのではと思います。</p> <p>それから、優先順位の 9 番で「その他市長が定める場合」とありますが、市か市長、どちらかに統一したほうがよいと思います。</p>
事務局・小野田 渡辺会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>これについてはそのまま文言を変えるということではよろしいですか。</p>
事務局・小野田 木下委員	<p>はい、修正させていただきます。</p> <p>1 番で「労働することを常態とすること」とありますが、家事労働は入るのでしょうか。</p>
事務局・小野田	<p>ここでいう労働は就労ということで考えられています。自営業などそういう場合は就労の中に入りますが、通常の家事については労働には入っておりません。</p>
鈴木副会長	<p>1 番の「1 月 48 時間以上の労働を常態とする」ということですが、前回の会議で「(1 日 4 時間以上かつ月 12 日以上)」ということは決定したことだったか確認したいのですが。</p>
事務局・小野田	<p>前回の会議で示させていただいた「月 48 時間以上」の中を 3 通りに分けておまして「1 日当たりの時間も日数も定めない場合」、「1 日 4 時間以上週 3 日以上の場合」、「1 日 4 時間以上月 12 日以上の場合」ということで、そのうちの「4 時間以上月 12 日以上」、この場合を選定していただいたと認識しております。</p>
鈴木副会長	<p>わかりました。</p>

渡辺会長	他にございますか。それでは、質疑もないようですが、保育の必要性の認定基準について、承認することとしてよろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
渡辺会長	<p>それでは、議題1 保育の必要性の認定基準、保育優先利用の基準について、承認することとします。</p> <p>< (2) 公立保育所の定員について ></p>
渡辺会長	議題 (2) 公立保育所の定員についてを議題とします。事務局の説明を求めます。
事務局・小野田	資料2 について説明
渡辺会長	事務局の説明が終わりました。質問等ございますか。
相澤委員	<p>0歳児の定員を増やして3歳児の定員を減らすという提案がされましたが、全体的には100名の定員を減員するということになると思いますが、定員を落とすことによる影響は何かありますか。例えば保育士さんを定員数で割り当てているとか、そういったところの保育士さんの数の影響はいかがでしょうか。</p>
事務局・小野田	<p>公立保育所の保育士の配置につきましては、定員に対して配置するのが受け入れ態勢として望ましいことですが、現状といたしましては、入所する児童に対しての配置をしており、保育士の配置に対する受け入れの余裕はあまりありません。</p> <p>子どもの人数によって配置の基準が違いまして、3歳以上児については30人に1人の保育士ということになっております。通常、何もないければ、保育士が1人いれば30人まで受け入れられるということです。</p>

<p>相澤委員 渡辺会長</p>	<p>0歳児・1歳児の保育士の配置については、0歳児は3人に1人、1歳児は6人に1人という基準があります。できるだけ4月から途中入所に備えて保育士を配置するように努力をしていますが、あくまである程度実態に合わせての配置ですので、定員に対してではありません。</p> <p>わかりました。</p> <p>今の議題は、定員についてということですがけれども、ニーズ調査と実際の定員では大きくかい離している部分があって、小野田係長が説明した通り、実態に即した形で定数の管理をしていくということになります。</p> <p>その辺をご理解いただければ、これによって公立保育所の定員について、承認することとしてよろしいでしょうか。</p>
<p>各委員 渡辺会長</p>	<p>異議なし。</p> <p>それでは、ご異議なしと認めます。議題2の公立保育所の定員について承認することといたします。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>< (3) 子ども・子育て支援事業計画の骨子案について ></p> <p>議題 (3) 子ども・子育て支援事業計画の骨子案についてを議題とします。事務局の説明を求めます。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>資料3について説明</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>事務局の説明が終わりました。質問等ございますか。</p>
<p>相澤委員</p>	<p>13ページの幼児期の学校教育・保育の量の見込みと確保方策ですが、各地区とも量の見込みで富津市と</p>

事務局・白石	<p>君津市という表現がありますが、これは何か比較する意味合いがあるのでしょうか。</p> <p>それと28ページの実費徴収に対する補足給付ですが、近隣3市の実施状況が分かったら教えて下さい。</p> <p>13ページの君津市の記載ですが、今、君津市から富津市の保育所への子どもの受け入れが近隣市の中で一番多い状況です。事業計画上では、広域調整というものがあまして、君津市が富津市に委託する人数の見込みを算出し、富津市が君津市から受け入れている人数を計画上に載せます。このことについて君津市から協議が来ております。</p>
相澤委員	<p>君津市在住の方が富津市の保育園に預けている、もしくはその反対ということですか。</p>
事務局・白石	<p>君津市の方が富津市の保育園に預けているということです。ただ、数的には君津市からの受入れの数が圧倒的に多く、富津市からも君津市や木更津市に預けていますが人数は少ないです。君津市からの受入れは100人以上ですので、量としては見込まないわけにはいかないというところです。</p> <p>28ページの実費徴収に係る補足給付につきましては、これは来年度からの新規事業です。ですから、他市も計画策定中で、正式にどうなるかはまだ把握はしておりません。</p>
相澤委員	<p>新規事業ですか。それでも徴収金額が異なるのでまだ実施の予定はないということですか。</p>
事務局・白石	<p>異なるというのは、実際に徴収の状況が色々あるということをまず紹介しています。まだ内容が全然分からなく、補助の対象や、金額の情報が全く来ていないので、今の状況では分かりません。そのため、今の段階では実施しないということで計画は作らせていただ</p>

相澤委員	<p>きました。</p> <p>財政上の問題等もありますけれども、これをやることによって何かメリットがあるのであれば、市のイメージアップなり、定住人口が増えるなりがあると思います。金額にもよるとは思いますが、そういった視点もご検討いただければと思います。</p>
事務局・白石	<p>今、状況が全然分かりませんので、今後、国から詳細がきましたら間に合う範囲で検討していきたいと思えます。</p>
渡辺会長	<p>国から指針のスケジュールは、全く出ていないということですか。来年の4月からですよ。</p>
事務局・白石	<p>来年度始まりますが、まだ補助金額等も把握できておりません。</p>
渡辺会長	<p>いつごろというの、全くですか。</p>
事務局・白石	<p>事業の補助率は国・県・市がそれぞれ1/3ということにはなっておりますが、それ以外はまだ何もなくて、この事業についてはいくらまで対象にするとか、その辺が全然つかめておりませんので今判断できないというところがあります。</p>
渡辺会長	<p>例えば認定世帯の実数というのか、予測されるような数字は把握されていますか。</p>
事務局・白石	<p>対象が低所得者となっておりますが、低所得者もどういう方が対象かはっきりと分かっておりません。</p>
渡辺会長	<p>例えばこちらで認定世帯の仮説を立てて、生活保護を認定されている等、ある程度の一定の基準を仮定して予測を立てることは可能ではないですか。例えば10人なのか、100人なのか、1,000人なのかぐらいの予測は必要ではないかと思えます。</p>
事務局・白石	<p>市民税の所得割の非課税の方、均等割の非課税の方などの数字はある程度つかめますので、金額の上限が</p>

<p>渡辺会長</p>	<p>でてくれば、市の負担もある程度は見込めるとは思います。それも含めて検討させていただきます。</p> <p>大変ですけれども、資料として用意していただければ、国の指針が出た時にすぐ対応しやすいかと思いますのでよろしくをお願いします。</p>
<p>事務局・白石 松倉委員</p>	<p>準備させていただきます。</p> <p>保育料費以外に支払うものが、公立の保育園や幼稚園で羅列されていますが、1園につきトータルでいくらというのも出ていますか。種別ごとになっているので、1年でいくらというのが見えにくいと思うのですが、これは計算上ではできますか。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>年1回のものや毎月のものもありますが、おおよそはでると思います。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>量をどう確保するかというのは具体的な数字が入ってくると思いますが、最初に書いてある理念のところの質の確保について、質をどう考えとかがいうところはもっと協議しなくてはいけないと思います。こういう支援の中身というものが必要で、そのためにはどういう事業なり設備なりを用意するかという議論をしないと、数字をただ作ったというような話になると思います。</p> <p>これは、まだ概略的なものですがけれども、細かく見ていくと、具体的な質の確保の受け入れとなると、話し合うことがいっぱいあるなという風に思います。</p> <p>例えば30ページの妊娠・出産期を見ると、重点施策となっていますが、これは保健師さんの関わりが主だと思います。健康とか、そういう支援も大事なことです。もう一方で、保育園や幼稚園を利用していない人も、市内の保育園等に、就園していなくても気軽に利用できる、親子で遊びに行くと実際に保育園の</p>

子どもと一緒に過ごして帰れるような、つまり、家庭に閉じこもらなくて済むような、そういう施策が安心というところの中に意味を持つてくると思います。

ところが、子育ての不安があった時に誰に相談しますかというような調査をすると、ほとんどが祖父母や親といった身近な人となっています。身近なところに相談する人がいるというのは意味のあることですが、そうではないところとつながっていない、あるいはそういったことの情報がないというところが、これは富津市だけじゃないかもしれませんが、富津市でいえば大きな課題だと思います。そういう意味では公立・民間を問わず、富津市が今やれていること、あるいはこれから目指していくことを、もっとみんなに分かりやすくPRしていくことが、これからものすごく大事になっていって、それは、広報紙で知らせていますという今までのレベルとは違うレベルのことを考えていかななくてはいけないなと思います。みんなが知っているということやこれからどうしていくのかなど、みんなが安心ということはどういうことなのかという質の問題を議論していかなければならないと思います。

今という時期は、この計画は来年の4月から始まるということで、残り半年しかなく、急いで形を整えなくてはいけないという意味でタイトな部分もありますので、今はこういうことに多くの時間をとられるかもしれませんが、この後、次世代行動計画と合体していくということであれば、その辺を次の5年に向けていくのか、あるいは5か年計画の中にさらに織り込んでいくのかということも含めて議論する時間をいただきたいというお願いがあります。

前沢健康福祉部長	<p>この計画の関係ですが、5か年計画の中で推進していくという形で考えております。その中において、まず、活動拠点となる支援センターの設置を富津市全体の中でどのような形でやっていくのか、活動拠点をどこにもっていくのか、いろいろな公共用地の再配置の中で、5か年の間に拠点づくりをして、そのなかに付帯的なものを取り入れる方向で考えているところです。</p>
鈴木副会長	<p>先ほど見込みの量と数字を説明されて、なかなかご苦労があっただろうなと思います。</p> <p>人口が減っていくことを含めながら、現状をどう確保しながら将来の見込みの量の説明がありましたが、非常に消極的というか、守りの見込みになっていると思います。積極的というか、もっといろんな意味で活力のあるような計画を描くということを議論していきたいなという風に思います。先ほど学童の話で、公立の保育所では、余裕がないからそういうことができないということでしたが、本当にできないものなのか、できないとすればどういう活動ができるのか、また、全学校に学童を1か所ずつ配置するという話もありましたが、それを実現するためにはどうしたら良いのかという具体的な話をしないと、目標ばかりで、全学校に1か所ずつという目標だけでは何も動いていかないと思います。</p> <p>学童の話は、委員でやられている方がいらっしゃいますので、私が語るよりも当人が語ったほうが良いのですが、おそらく1か所設置することも、増やしていくことも、ものすごく大変だと思います。何が大変かというと、場所の確保もありますが、指導員をどう確保するかがもっとも大きな壁だと思います。じゃあ、</p>

<p>前沢健康福祉部長</p>	<p>それを富津市としてどう確保するのか、どういう応援ができるのか、そういう具体的な話をしていかないと、数字ばかりで最終的にはどういう成果が上がったかというところの手ごたえがあまり見えてこないということにもなります。</p> <p>今までやってきた実績や枠がありますが、我々としてはそういった枠も壊して、乗り越えていかなければならないと思っています。</p> <p>具体的な内容等については、放課後児童クラブは、市として色々な方策等考えていきたいと考えます。また、委員の皆様方の意見も聞きながら、この放課後児童健全育成事業について、どのような方法がこの地域にとって良いのか、どんな形が良いか教えていただきながら、我々の方もそれに沿った形でやっていきたいと考えています。</p> <p>市としてもこのまま人口減少だけではいけないので、人口増加策もこれからどんどんやっていかななくてはならないと思っていますので、委員の皆様ご協力よろしくをお願いします。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>仕組み作りだと思うのですが、鈴木副会長からあったようにそれぞれのテーマがあって、この子ども・子育て会議というのは一定のメニューやルールがあって、やらなくてはいけないことがあって進めていくわけですけれども、フリートークというわけにはいかないし、議題はある程度決めておかないといけないし、それは当然だと思います。</p> <p>そのほかに、これから本当に実のある議論をしていくかということ、いろんな人の意見を自由に出し合う、行政側も諮問機関の委員の側もいろんな意見を自由に出し合う環境づくりだと思います。今後、計画を立て</p>

鈴木副会長

てからになるかもしれませんが、いろいろなテーマごとに、そのテーマに関して意見を持っている人たちが集まって、こういう場ではなくて小さい会議室でもいいですから、自由に議論しあう中で、例えば行政側はどこまで行えばいいか、どういう問題があるのかとか、あるいはもう少し踏み込むのであれば、財源どうしましょうかとか、規制を撤廃していくかとか、そんな話をしていく形でやっていかないと本当の議論はできないと思います。

本日お集まりのみなさん全員に、それぞれにああしたい、こうしたいという意見があって、それはできるだけこの会議に限らず、ここで仰っていただければもちろんいいですけども、それに限らず、機会があれば担当者に提案して行って議論していく。それをメニューに揃えていくということも必要で、そういう取り組みが本当に面白い会議ではないかと思っています。

次世代行動計画もここに入ってくるということになると、幅のあるものになってきますので、それを一つの会議の中でやるのは時間的にも難しいので、やはりチーム作りというか、課題別のチームを作って、委員の人以外も入っていくように、その中から実になるものを拾ってやらないと、このままジリ貧になっていく、そういうことばかり考えてしまいます。

先日テレビで、鳥取県の小さな町でしたけれども、人口の規模が減っていく対策ということで、いい効果になるかどうかわからないけれど、行政の色々なところに看護師さんがいて、定期健診とは違った子どもの発育や健康の様子を密に相談できるということが報道の中で紹介されていました。

みんなが安心とはどういうことなのかという具体的

	<p>な形を見つけて、探し出していかなきゃいけないなど 思います。</p> <p>保健師さんたちが戸別訪問してくださるのは良いこと ですが、保健師さんの的な対応という健康というテ ーマがありますので、広い意味で子育て支援まで拾い きれないところがあると思います。じゃあ、どうい う風に作っていかなくちゃいけないかを考えていかな ければならない。そういうことはここで議論しきれな いので、どこかで時間を作っていただいて、ぜひお願 いしたいと思います。</p> <p>これはまた、私と副会長と意見交換をしながら、次 の形として整えていきたいと思いますので、協力をお 願いします。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>29ページの学校教育・保育の一体的な提供を含む 子ども・子育て支援の推進方策というところで、「幼稚 園・保育所等から小学校への滑らかな接続のためのカ リキュラムの検討や、合同研修の実施等により多面的 な連携を推進します。」と書いてありますが、学校側・ 先生方はどのような思いであるのでしょうか。</p> <p>なかなか忙しくて、声をかけても時間がないという 風に断られることが多いのですが、合同研修や、要す るにお互いのコミュニケーションについては、教育委 員会とも積極的な連携がとれますか。</p>
<p>鈴木副会長</p> <p>菊地委員</p>	<p>確かに、言われるとおり、なかなか幼保と学校の連 携は遅れている分野だとは思いますが、今、市から療育 相談等で気になるお子さんの情報提供を学校にしてい ただいておりますが、そういう会議をもつ機会はある がたいことですし、学校としても、1年生というのは 本当に重要な、学校に慣れていく学年ですので、学校 としても対応を考えながら受け入れられるのはありが</p>

鈴木副会長	<p>たいと思います。</p> <p>特別支援が必要な子どもだけではなく、一般的な子どもでも、保育園・幼稚園から小学校へあがるつながりの中でお互いそれぞれが持っている思いを出しながら、一緒に考えていく機会を、連絡協議会とか、何かそういうものが作れないものかなと思います。</p>
渡辺会長	<p>教育委員会、教育部に持ち帰って検討していただいて、次回にでもその検討結果をお伝えいただければと思います。</p> <p>また、今後のスケジュールを確認したいのですが、今、骨子を検討していますが、今後のスケジュールについて説明をお願いします。</p>
事務局・白石	<p>今日の議論の結果を受けて、これから計画案を作ります。案ができましたら皆さんに事前にお配りし、ご意見頂いて、会議を開いて決めたいと思います。</p> <p>今年度の会議は残り2回を予定しています。期間的には厳しいのですが、次回を12月中に開催して、そこで会議としての最終案を決定して、その後の予定は、案をパブリックコメントという方法で市民から意見を募集します。それを約1か月程度予定します。</p> <p>その後、会議を開いて、意見を反映したものを皆さんに諮り、最終の計画案としたいと考えています。</p>
渡辺会長	<p>今のスケジュールを含めて、何かご意見等ご質問ありましたら改めて伺います。例えば前回要望したけどこれはどうなっているのかとか、そういうことでも結構です。</p>
井上委員	<p>今日が10月で骨子案をやって、12月にまた会議を開いて、その時には具体的な内容が皆さんに示されるということですか。</p>

事務局・白石	<p>その場でというのは無理ですので、できるだけ早めに事前にお配りして、意見を伺いたいと思います。それで会議を開きたいと思います。</p>
井上委員	<p>それで案をパブリックコメントで市民みんなが見られる状態にして、意見を取り入れて、最終案として、富津市はこういうことをしますよという決定をするということですか。</p>
事務局・白石 井上委員	<p>はい、そうです。</p> <p>鈴木副会長が言われたような課題別のいろんな意見を募ってというのは、10月から12月の間に何とかしないと、案には反映されないということですか。</p>
事務局・白石	<p>計画に反映させるためにはそうなります。ただ、内容によっては計画に盛り込むものではなく、これからどうするかといった方向性の問題だと思います。</p> <p>計画は、基本的に事業計画ですから、教育保育事業の確保や支援事業の13事業をどうやっていくかと、次世代育成支援計画のそれぞれの事業をどうやっていくかというものになります。それ以外のことについては、議論を別に行っていただき、実際にどうやっていくのかといった具体的なものについてはまたやり方があると思いますから、それは並行して行って構わないと思います。</p>
松倉委員	<p>実費徴収についても、基準が出てないから全く分かりませんということだったじゃないですか。今この段階では予定はありませんと記載してよいのでしょうか。市は実施しないつもりという風に言っている感じに受け取られてしまいますよね。</p>
事務局・白石	<p>先ほど皆さんからご意見もありましたので、対象者の絞り込みは行い、補助額の上限などがあると思いま</p>

<p>松倉委員</p>	<p>すので、そちらも確認します。</p> <p>パブリックコメントで実費徴収の補助をしてくださいという意見があがったらどうしますか。示されていないのにこういう風を書いてしまうと、私だと、財政も厳しいって言っているし、言ってもダメなのかなと思ってしまうような気がして、ここに今すぐこういう風を書いておくのはどうなのかなと思います。想定しませんとか、実施予定はありませんとか書いてあると決定事項のようにイメージされる気がします。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>計画上でみると実費徴収の補助だとしたら、「やるか、やらないか」になります。計画としてやるなら載せる、やらないなら載せないということになります。国の案内が間に合えば、そこで費用が見込めますが、費用がどうかなるか分からずに今の段階で実施するのは難しいと思います。あとは計画変更もあり得ますので、状況を見てこれなら富津市でもできるとなれば、それは取り込んで行けると思います。ただし、実際の補助金申請で計画になればダメともはっきり書かれていないので、わからないところもあります。今来年の予算要求の時期になっていますので、国から情報提供もあるかと思っていますので注視していきたいと思います。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>市民の方が計画書を読んで理解するのはすごく大変なことだと思います。国の状況だって一般の人達がわからない状態でこれを出されれば、ああそうかという風に思ってしまうがちだと思います。今、白石さんが説明されたようなことも踏まえて示して、一般の人達から意見を求めるのなら、そういうこともしっかりと伝えたほうが良いのではないかと思います。パブリックコメントで他の計画にどのくらい意見が出てくるか</p>

事務局・白石	<p>わからないですが、これでは、あまり意見が出て来ないのではないかと思います。</p> <p>今のご意見については、計画でどの辺まで表記が可能か、書き方もありますが、今の骨子案ですと教育保育の提供、区域、事業内容と方向性しかありませんので、計画についてはもう少し詳しく現状や課題も入れて作りたいと思っています。</p> <p>その中で例えば実費徴収の補助については、市が予算確保すれば、相手に支給することができます。ただ、実際のところは全体の予算の中で事業は限られますので、何に使うかという優先順位を考えなければいけません。それを含めて、表現を検討したいと思っています。</p> <p>事業は全部できればそれがいちばん良いのですが、財源があり、予算を使うわけですから、効果も考えなければいけません。13事業については検討を行い、仮にやらない場合にはなぜやらないのかなど考えさせていただきます。</p>
鈴木副会長	<p>次世代行動計画をつくるときに、計画に載っていないとお金が出ないっていう話がありましたよね。だから、載せたか載せないかってすごく大きいですよ。載せないと始まらないということになると、じゃあとにかく言葉として片鱗でも載せておかないといけないのではないかという話が出てくるので、計画にあるからやる、無いからやらないという風にしてしまうと、どういうものを作るか焦りますよね。</p> <p>今日の説明を聞いていると事務的に粛々と進めなきゃいけないところもあるし、仕方ないところもあるとは思いますが、わくわくしてこないですよ。あれもこれもというのはもちろん無理なのですが、何か富津市は新しい試みを始めようとしているというわくわ</p>

<p>渡辺会長</p>	<p>くするのを一つでも二つでも出せると、みんなが関心を持ってくれるかなと思います。お金をかけるという意味で言っているわけではないのですが何かこう新しいことが始まりそうというものを出したいですね。</p> <p>今のことについては、計画の中でやらないと事務局として断定しているということですか。難しいところだとは思いますが。</p>
<p>前沢健康福祉部長</p>	<p>この新しい事業につきましては、今後の国の動向として所得基準など情報が来ると思います。財政規模によって各市町村に入ってくるお金も違ってきますので、先ほど会長も言われましたように、人数を把握して、どれくらいかかるのかというところを把握しながら、この事業については5か年でやるのか、すぐやるのか検討していきたいと思います。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>他にご意見、ご質問ございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、議題3子ども・子育て支援事業計画の骨子案については、今説明いただいた骨子案を基に素案を作成していくこととさせて頂きたいと思います。</p> <p>以上で議案はすべて終了しました。そのほかに事務局から何かございますか。</p>
<p>茂木係長</p>	<p>富井委員、井上委員から作成されたアンケート結果がありますので、その説明をお願いします。</p>
<p>井上委員</p>	<p>8月の会議の時に13の事業について説明いただいて、実際に子育てをしている当事者から意見を聞いてみたいなというところから他のお母さん達と作成させていただきました。13の事業について説明いただいた内容をお母さんに説明し、会議を設けて2回ほど集まって話し合いをした結果、いろんな方からアンケー</p>

トをお答えいただきました。アンケートは、200部用意し、50部回収できました。アンケート結果の2ページ目にアンケートの回答の中でこういう案があったらどうかを「必要・不必要・どちらでも・わからない・無記入」で分けさせて頂き結果を作成しました。

その他に、自由記載で13事業以外の実際自分たちが子育てをしている中で、こういう支援があつてすごく助かったこと、これはいらなかったということや新規で直面している課題があれば記入してくださいということも回答してもらいました。自由記載は、実際は重複しているものもかなりあったので抜粋し、資料上A4版で2枚になりましたが、実際は5枚ほどになりました。あとは提案ということで、こういうものがあったらいいのではないかなということを最後のページに提案させて頂きました。

この中で、実費徴収についてはいろんな意見もあり、細かい内容をそれだけで出されても、実際に子育てしている保護者にしてみれば難しすぎてわからない現状がかなりあつて、本当にこれが必要なのかわからないとか何が言いたいかわからないといったところもありました。案を作っていくのに難しい言葉も必要だとは思いますが色々説明する機会というのをもっと持たないと、実際子育ての現場にいる人たちにはなかなか伝わりにくいのかなというのがこのアンケートをして感じたことです。

あとは、お母さん同士話せる場が、子どもが小さな頃、1歳6か月や3歳児健診まではあつたけれど、それ以降は無くなってしまふ。親たち同士のつながりがなくて、情報が行かなくなってしまつて、子育てでつまづいてしまつたり、悩みを相談する場所がなか

	<p>ったりと、そういったことも意見として出てきました。</p> <p>天羽地区に限っていえば、学童の問題がすごく声としては出ていて、おじいさんおばあさんがいる家庭でも、その方たちが働いている現状が今は多くて、子どもに家をひとりで任せなきゃいけないという家も実際あり、あとは、仕事に戻りたいけど学童が無いから子どもが心配で復帰できないので、自分があきらめざるを得ないという現状もあるということでした。ただ、全部というのは金銭的にもきついと思うので、地区に合わせた新しい体制を色々と考えていけたらいいかなということで提案を書かせていただきました。</p> <p>あとは、13の事業とは全く異なるのですが、図書館の話がよく聞かれました。富津市にもある移動図書、公民館・市民体育館の中にある図書室の活用とか、そういうところだったら、もしかしたらお母さんたちでも変えられるかもしれないっていう、本の整理をお母さんが手伝うような当番制など、お母さんたちも実際やれるのではないかという案もちらほら聞かれたので、こういうお母さんが参加できる会議を増やせたらいいかなと思いました。</p>
富井委員	<p>図書館の件は本当にいろいろなところから、アンケートにも書いてあったし、声でもきくので、やれる人手がこんなにいるなら何か変えられるのではないかとすごく思いました。</p>
井上委員	<p>一読いただいて、何かの機会に役立てて頂けたらと思います。</p>
前沢健康福祉部長	<p>貴重なアンケート結果ということで、いろんな部署に該当しますので、そちらのほうにお伝えしておきます。ありがとうございました。</p>
鈴木副会長	<p>先日、学校評議員の人達を集めた研修会がありまし</p>

て、そこで市の防災課長の講演がありました。その話を聞いていて、今までの私たち市民と行政の関係を变えていかなくてはいけないなというのを改めて思いました。

それは、防災の話ですと、色んな心配や不安があるので、あれもこれもやって欲しい、これも助けて欲しいってお願いされますが、限られた予算の中で全部答えるわけにはいかないの、自助というか自分達でできることは自分達でやって欲しいという話でした。

そういうことは、防災だけでなく図書館もそうですけれどもいろんなところに言えて、今までは行政に対してお願いしてやってもらう関係で向き合ってきましたが、市民もやれることに参加して一緒に作っていくという共助という関係を作りだしていく、ひとつの良いきっかけになるのではないかなという風にこの会議に期待しています。

全部行政で抱え込むのではなくて、こういうことやろうとしたらどうやったらできるかということ、遠慮なく私たちに投げかけて欲しいし、一緒になって私たちも考えていって、そういうことなら私やれるよということを見つけていけたら、今までと違うものが動き出すかなと思います。期待ばかり話していますがけれどもよろしくお願ひします。

渡辺会長

それでは今日皆様からいろいろご意見いただいて、最後の鈴木副会長のお言葉も行政の幹部も聞いてもらいたいくらい、ありがたいお言葉のような気がします。

みなさんの中で財政の部分でもお気遣いいただいている部分があるとは思いますがけれども、子育てや社会

保障の分野に関しては、冒頭にも申し上げましたが、成果があれば必ずやるべきことで、それを堂々と示すというのも、私たちこの委員会、委員の役割なのかなと思います。費用を使って効果が「出る、出ない」があり、だから「やる、やめる」これを明確に提示することは必要です。その中でできる事業とできない事業が出てくるかと思っています。そこは知恵の出し方で、お金を使わずにできる事業ももちろんあります。今、お母さんたちがおっしゃられたように図書室を手伝いましょうみたいな、すごく建設的な意見も出ているわけですから、この流れを大事にしていきたいと思っています。

先ほどから意見として挙がってきていますけれども、今後、この骨子がまとまった後の会議の方向にすごく期待を置いています。是非皆さん、自分なりのいろんな意見を出していただければと思うところであります。それでは、他の方よろしいですか。

平成26年度の第3回子ども・子育て会議をこれにて終了いたします。

委員の皆様には長時間にわたってご協力いただきましてありがとうございます。

閉会